

## 船舶事故等調査報告書

平成22年6月24日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009広第261号	
事故等種類	転覆	
発生日時	平成21年9月18日 22時50分ごろ	
発生場所	島根県出雲市長尾鼻 <sup>ながおほな</sup> 北方沖 出雲長尾ヶ鼻 <sup>いずもながおがほな</sup> 灯台から真方位328° 3.2海里付近 (概位 北緯35° 33.1′ 東経132° 48.0′)	
事故等調査の経過	平成21年9月24日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	船種船名、総トン数 漁船 ヒストズ1、14.86トン 船舶番号、船舶所有者等 SN2-1508（漁船登録番号）、個人所有	
乗組員等に関する情報	船長、一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定	
死傷者等	なし	
損傷	船室及び機関室濡損	
事故等の経過	本船は、船長ほか3人が乗り組み、長尾鼻北方沖を約7.5ノットの速力であなごかご網漁を行いながら南西進中、平成21年9月18日22時50分ごろ船体が右舷側に傾斜して転覆した。	
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 4 海象：潮汐 上げ潮の中央期	
その他の事項	救命胴衣を着用していた乗組員4人は、本船が転覆した際に海中に投げ出されたが、転覆した本船の船底にしがみついていたところ、付近を航行中の船舶に救助された。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし なし 本船は、ふだんから、あなごかご（800個）を左舷側に積んでおり、船体のバランスを保つため船首右舷側のバラストタンクに漲水していたものと考えられる。 本船は、あなごかごを左舷側から海中に投入すると同時に、船首右舷側のバラストタンクの水約1トンを排水し、左右のバランスをとっていたものと考えられる。 本船は、長尾鼻北方沖において、左舷側に積んでいたあなごかごを海中に投入した際、右舷側のバラストタンクの水を排水しなかったものと考えられる。
原因	本事故は、夜間、本船が長尾鼻北方沖において、左舷側に積んでいたあなごかごを海中に投入した際、船首右舷側のバラストタンクの水を排水しなかったため、右舷側に傾斜して転覆したことにより発生したものと考え	

られる。